

八丈島 水産だより

10月号

2015



ショウキズイセン



声を掛け合いすれ違います

今年の台風は日本に影響を及ぼすものが多く、各地に大きな被害を出しています。八丈島を直撃する台風はありませんが、台風の波やうねりが入り、定期船の欠航や漁に出られないなどの影響が出ています。

夏休み明けの最初のイベント、島内3校の6年生の遠泳が行われました。当日はうねりがあり、開催が心配されましたが、冷水塊で少し冷たい海を全員が泳ぎ切ることができました。各校がすれ違うときにはお互いにエールを送ったり、応援する保護者などに手を振るなど余裕も見られました。さすが最高学年ですね。

■ ムロアジ漁の漁模様

現在、ムロアジ（クサヤモロ）の棒受け網漁は、3隻の漁船が漁を行っています。この時期としては比較的大きなサイズが獲れています。

現在、黒潮が大きく蛇行、八丈島は冷水塊に入り、水温が低くなっています。ムロアジ漁と一緒に獲れる、給食で人気のあるトミメ（ナメモンガラ）は暖かい海水を好むため、水温が低い島の周りから離れてしまったようで、全く獲れなくなりました。

操業のようす



トミメ
(ナメモンガラ)

■ 今年のアブキは？



アブキ
(フクトコブシ)

八丈島で「アブキ」と呼ばれるフクトコブシは、小型のアワビの仲間で、伊豆諸島の各島で漁獲されています。

島では昔、年間20~40tとたくさん獲れていましたが、最近では100~200kgほどに激減していました。餌となる海藻が少なくなっているためと考えられています。

このようななか、今年も昨年より多く獲れました。少しずつですが、連続して水揚げ量が増えています。資源の回復を期待します!!